

人間探求学

2020年6月15日

自己紹介

平岡 俊一

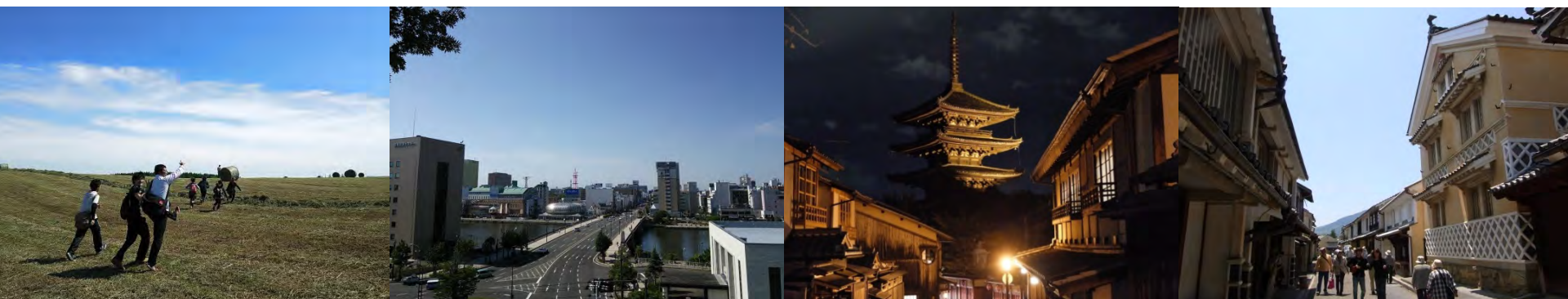
滋賀県立大学

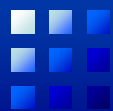
環境科学部 環境政策・計画学科



自己紹介

- 1978年、愛媛県松山市生まれ。中学、高校時代は野球部に所属
- 立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程修了
- 学部生時代から、地球温暖化問題に関する環境NGO／NPOの活動に参加
- 大学院修了後、NPO法人気候ネットワークで職員として勤務。その後、龍谷大学、北海道教育大学等での勤務を経て、2018年4月から現職
- 滋賀県立大学では、「環境社会学」、「市民参加論」、「社会学」などを担当
- 現在は、大学での仕事の傍ら、市民・地域活動やNPOの運営にも参加





NPO法人気候ネットワークでの活動と研究

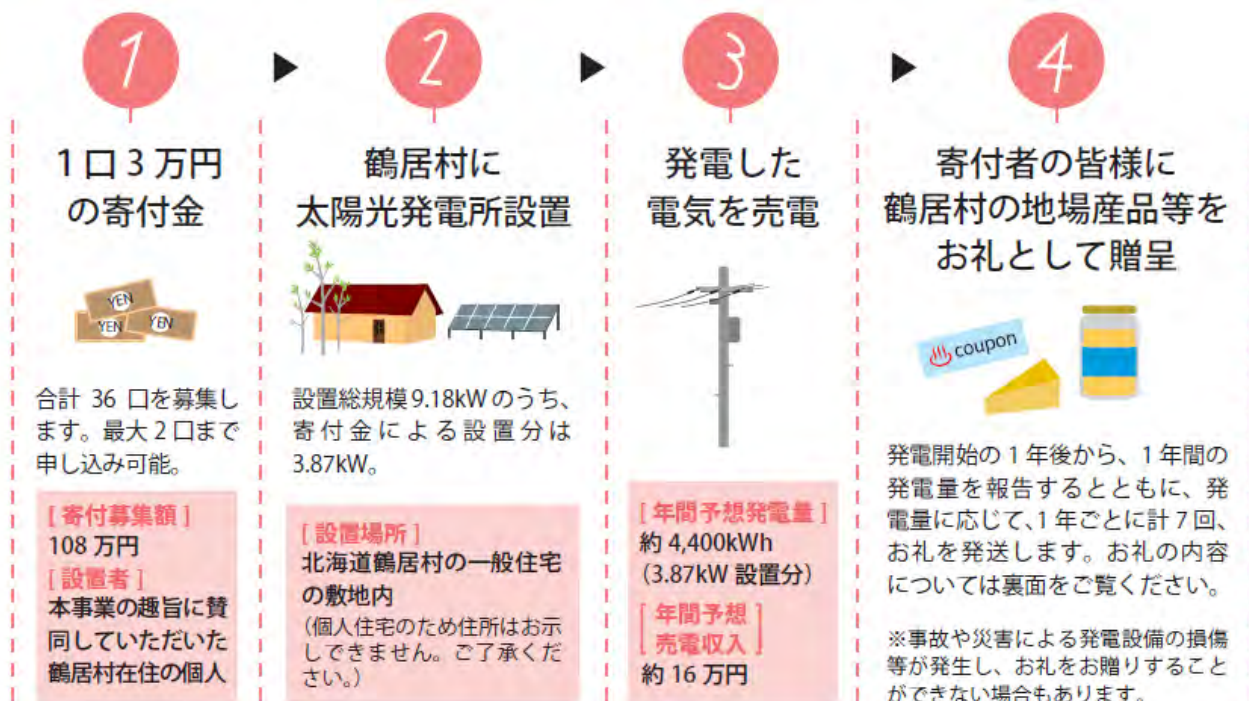


- 反対運動にとどまらない多様な市民運動の形に関心
- 世界的な市民・NGO間の連携
- 市民と行政間の仲介・コーディネーター役
- 政策提言
- 異業種との協働（パートナーシップ）





鶴居サルルンソーラー発電所 mini(北海道鶴居村)





クシロソーシャル大学(北海道釧路市)

クシロソーシャル大学





学生とのフィールドワーク





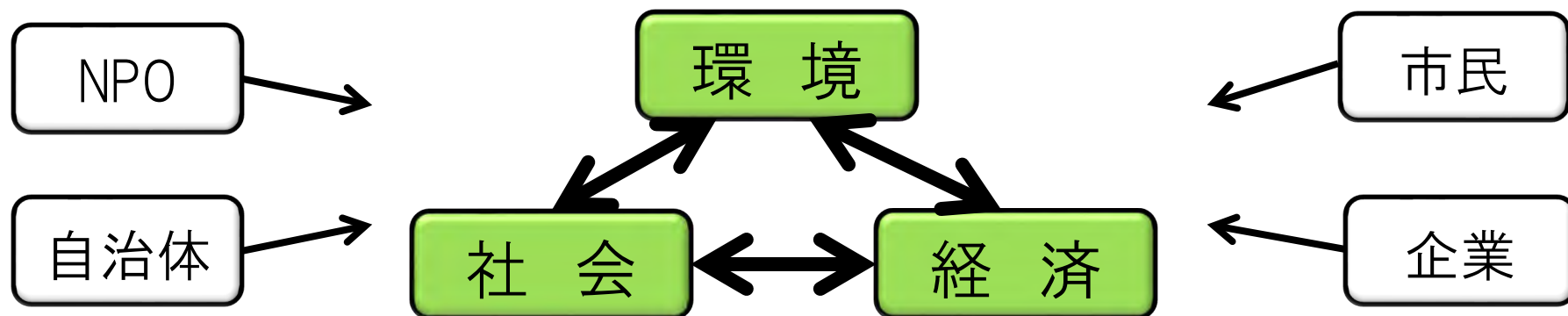
琵琶湖・沖島「島の未来をつくる会・エネルギー自給編」





関心分野:「参加・協働型の持続可能な地域づくり」

地域の**持続可能性の確保**を目指して、環境、経済、社会の諸領域を跨いで**横断的に展開**する地域づくり



- 地域の多様な主体の参加・協働のもと、どのようなプロセスで推進するのか？ 市民やNPOはどういう役割を担うのか？ 取り組みを支えるものは何か？ ⇒ 「**社会的基盤**」





これまでの主な研究テーマ

- 参加・協働型の持続可能な地域づくり活動の展開を促す**社会的背景と仕組み・組織づくり**に関する研究
 - 調査事例：滋賀県野洲市、東近江市、愛媛県内子町、北海道下川町、京都市ほか
- 持続可能な地域づくり活動において**NPO／NGOが担う機能**に関する研究
 - 調査事例：NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト（北海道浜中町）、NPO法人気候ネットワーク（京都市）ほか
- 地域エネルギー政策のガバナンス、特に**中間支援組織**（ローカルシンクタンク）の整備・強化に関する研究
 - 調査事例：北海道下川町、滋賀県東近江市、オーストリア、ドイツほか



主な研究手法

● インタビュー(聞き取り)調査

- 調査対象者との間で質問・回答を重ねていく方式。主に半構造化面接法を採用

● 参与観察調査

- 調査対象とする現場、組織、地域社会に入り込み、活動とともにしながらデータを収集

● 補助的に、文献調査やワークショップ、アンケート調査などを実施





出典:「クスろ港」HP
http://kusuro.com/report_20181014localphoto/